

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハーモニー (2F)	評価実施年月日	平成20年 7月
評価実施構成員氏名	松本 丈 西村 温子 大滝 妙子 山内 靖代 小川 京子 村山 智世 古川 育代 川原田 房子		
記録者氏名	松本 丈	記録年月日	平成20年 7月23日

北 海 道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>経営母体が宗教法人であることから、仏教に基づき独自の理念となっている。</p>		<p>地域の中でグループホームになる様にしていきたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関や各ユニット内に掲示されているが、共有・実践の取り組みは行なわれていない、理念についての確認・理解は行なわれていない。</p>	○	<p>理念の共有・実践についての話し合いを行なって理解していきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族へは施設内にて掲示しているが、地域に向けての浸透はされていない。</p>	○	<p>今後、交流を増やしその際に説明理解をして頂きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶は行なっているが、気軽に立ち寄るまでには至っていない。</p>	○	<p>行事などを増やして、気軽に交流が出来るようにしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>現在は少しづつ町内会の行事には参加している。ホームのお祭りにも地域の人に参加できるようにお知らせなどを行なっている。</p>		<p>以前より積極的だが、もっと交流を増やしていき、老人会や幼稚園などを交流していきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>話し合いや取り組みは行なわれていない。</p>	○	<p>町内からの、グループホーム等の説明を行なって欲しいとの話があり、現在検討中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価を実施することで、現状を確認することができケアの改善につなげたいが、意義を理解し具体的な改善に取り組んでいない。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行なわれ、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行なっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市役所の各課には定期的に訪問を行なっている。</p>	○	ホームより、担当者に話し合いをしには行っているが、もっと機会を増やしたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護や成年後見制度については、外部研修や内部研修で学んでいる。</p>	○	定期的に研修等を行なっていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修・内部研修を行い、意識を付けている。</p>	○	日常業務で起こり得る虐待を、日常的に話していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に、管理者が説明を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対策委員会を設けており、意見・不満・苦情があれば直ぐに会議を開き、運営に反映をさせています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度ホーム便りと共に、担当者から個別に様子の報告を行なっている。その他に電話などでも報告を行っている。金銭管理は、一月分の領収書を送っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対策委員会を設けており、エレベーター前に意見箱も設置しており、意見・不満・苦情があれば直ぐに会議を開き、運営に反映をさせています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関して職員が意見できる機会はほとんどない。		意見を述べる機会を作って欲しい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	増員しされている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在は、移動などは無く落ち着いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>個別的に定期的に研修を受けている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同業者との交流の場は、研修のみとなっている。</p>	○	他の施設の見学・勉強会などを行なっていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>全く行なわれていない。</p>	○	何か機会を設けてもらいたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>全く行なっていない。</p>	○	何か機会を設けてもらいたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談・面接時等で、受け止め出来る限り事は対応し安心して頂ける様にしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談・面接時等で、受け止め出来る限り事は対応し安心して頂ける様にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要な支援を見極め対応し、隣接しているデイサービス等や他のサービス利用を含め、ご本人に合った対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前に見学に来ていただき、納得・安心していただいてから、相性・環境・タイミングを考えて、カンファレンス・ケアプランを作成し、本人が安心して生活出来るように家族にも協力して頂き、出来るだけ面会に来て頂けるように話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員が、本人や家族の立場になり考え、「嫌な事はしない」「嬉しい事は実行する」様にし、得意な面を引き出して支えながら生活をしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とコミュニケーションを大切にしており、色々と密に相談や話し合いを行ない支えていく関係を作っています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	全てを任せられるご家族もおられるが、良い関係を作る為に行事等に参加を呼びかけている。		家族に会える機会を増やし、気軽に来れる雰囲気作りを行なっていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔、通っていた所や個別レクで本人が行きたい所や馴染みの場所などに出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルになりそうな時は、職員がさりげなく間に入り防止し、レクレーションの時には楽しい時間を共有できるような雰囲気作りをしているが、孤立してしまう事もある。	○	もっと関われる機会を増やすように考えていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了した利用者が、終了後に来られたりその後の手続きを手伝う事もあり、家族等は挨拶や世間話などを行なう機会があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の一部としての会話の中から希望や意向を汲み取るようにしているが、困難な時に職員の押し付けにならない様に本人本位に検討しているが、本人が理解できず本人の失敗を防ぐ為に職員のペースになってしまう事もあります。	○	今よりも、もっと一人一人との話す時間を増やしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族との会話の中で、色々な情報を聞き職員と共有をしている。		フェースシートに書き足して更新を行なっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	これまでの暮らしを土台に、受診結果やスタッフからの情報収集を行なっている。		情報収集として、朝・夕の申し送りによる。情報の共有を行なっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	必要に応じてケアマネージャー・管理者・職員と話し合い、それぞれの意見・情報に反映させその時に合ったケアプランの見直し・作成を行なっている。	○	もっと、チームでの話し合いの機会を増やし、意見やアイデアの収集に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は期間内に応じて見直しされている。変化が生じた場合は速やかに現状に即した計画に変更している。変更する場合は必要な関係者と話し合いを行い見直しを行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子は介護記録に個別に記入しており、関わる職員が記録を読むことにより情報の共有がされている。	○	ケアプランに沿った記録がされていない場合があるので、記録の統一をはかり、ケアプランの見直しやケアの実践に活かせるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	関係医療機関と連携を取り対応し、隣接しているデイサービスを要望や状況により利用している。		デイサービスでは、お風呂やカラオケを利用している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア・警察・教育機関等と協力し受け入れている。	○	もっと、色々な所と機会を増やしてもらいたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	以前、自立度が上がり同じ地域の別のサービス・地域包括支援センターのケアマネジャーを活用し支援を行なった事があります。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	別のサービスを活用した事で、地域包括支援センターと協働を行い長期のケアマネジメントを行って頂きました。	○	運営推進会議への参加をお願いしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけの医と事業者の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は、月に2回の関係医療機関の往診を受け、3ヶ月に1度定期検査を行っている。希望があれば適切な医療機関の受診を行い。その他の科につきましては、必要に応じて受診を行なっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一人一人の状態を把握し、医師に相談し必要に応じ又は定期的に受診が出来るように支援を行なっている。		専門医の診断を受ける事により。利用者の状態を把握し適切な支援を行なっている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	主治医の居る医療機関の看護職の方と相談を行ったり、隣接しているデイサービスの看護職に相談できるようになっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院をされた場合は、面会に行き安心して下さる様に状況等の確認を行い、医師・家族と連携を取り、元気に退院出来るよう支援に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族・医療機関と話し合っており、その都度、職員で話をし共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族・医療機関と話し合った上で、事業所の「出来る事」「出来ない事」を見極め、スタッフは支援に取り組んでいく様、検討や準備をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族・本人・ケア関係者・職員と話し合いを行い情報交換を行っている。	○	利用されてから、落ち着かなくなる方がおられるので、もっとダメージを防ぐ様に支援していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねないように勤めているが、時々本人に対して、適切な言葉掛けがされていない時がある。	○	職員同士、適切な対応が出来るように話し合いを行なっていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意思に沿いながら、傾聴し納得されるような支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、出来るだけ本人のペースで希望に沿うように支援しているが、希望を言えない方も居り、努力は行なっているが職員のペースで行なっている時がある。	○	本人の希望に沿った支援が、どの様に行なったら良いかを話し合い、職員同士で助け合っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人や家族から好みを聞き支援を行なったり、昔から行っている理容・美容室に行っているが、化粧などを行なう機会は少ないです。	○	本人が選んで買える様に個別でレクレーションを行なっているが、もっと機会を増やしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	行なえる利用者は、職員と一緒にいる。	○	行なう利用者に片寄りがあり、出来ない利用者にも支援を行ないながら参加して頂くようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は、好みの物や希望の物を出しているが、食事とおやつの際は同じ物が多い。タバコやお酒は、希望時に体調を確認し家族・医師の許可で提供を行なっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	チェック表を作成し、なるべくトイレでの排泄を行なっているが、排泄パターンも変化していきますが、なるべく維持し、少しでも向上に向けて取り組んでいます。	○	出来るだけオムツ等の使用を減らし、トイレでの排泄が増えるようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日・時間帯は決めていないが、声を掛けないと入浴を希望されなく職員の都合で入浴して頂く事がありますが、その時は声掛けを行ない納得していただいてから、一人ひとりのタイミング・体調に合わせて無理なく入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の休息は一人ひとりの身体状況に合わせて支援している。夜間の眠りについても一人ひとりの習慣に合わせて安眠出来るように支援している。		日中の活動を増やす事により、夜間安眠が出来るように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力に合わせた役割を持って頂き、毎日継続出来るように支援しているが、出来ない人は一日何もしない日がある。	○	楽しみや気晴らしが多く出来る様に時間を作り、取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は職員が管理しているが、小額を利用者が管理している方も居る。支払い時などに本人に払って頂く事もあります。		金銭の管理・所持は難しいが、外出時に出来るだけ支払いが出来るように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物などの、日常的な支援は行なっている。	○	重度の方の外出の機会が少ないが、体調などを考えて外出も機会を増やしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1回、個別レクレーションを実施し希望の場所ややりたい事の支援を行なっている。年中行事などで家族との外出を支援し参加頂いているが、一部の家族は遠方の為、なかなか外出する機会が減っている。	○	個別レクレーションなどに、家族が参加していただける様にしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、自由に電話出来るように支援しているが、本人からの希望はあまりない。手紙は全くありません。	○	面会の少ない家族へ働きかけ、電話をしたり手紙を出したりしていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できるように様になっている、居間や居室でゆっくりと過ごされている。	○	もっと、気軽に来れるように工夫や雰囲気にしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を幅広い目では正しくされていない様に思われる。	○	今後、深く話し合っていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯の為、ホームの玄関に鍵をかけている。		ユニットの出入り口にはセンサーを設置してある。玄関のみ重大な事故防止の為スイッチを移動してあるが、本人の意思を尊重できるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で状況を共有し、連帯を取りながら日中はプライバシーに配慮し居室への声掛けを行い、夜間はセンサー使用や定期的な見回りをし配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物は一人ひとりの状況に応じて取り組み、使用するときは職員が立ち合い確認し、保管・管理を行っている。		喫煙室の、タバコ・ライターの後始末・管理は職員が行なっている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修や講習会にて学び、事故防止マニュアルがあるので確認や対応が出来るようになっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員は普通救命講習に参加し訓練を受け、消防訓練も随時行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	非常災害マニュアルがあり、消防訓練においても行われている。また、地域の協力については、近くの交番に災害時の協力をお願いしている。運営推進会議においても、近隣住民の協力を要請している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こり得るリスクを、家族と管理者が話し合っている説明を行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝・夕の申し送りやチェック表により情報の共有に努めている。体調の変化に気づいた際は、速やかに管理者・医療機関に連絡をとり、必要な対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報シートに詳しく記載し、理解出来るように努めているが、職員が利用者全員の服薬の理解が出来ていないと思われる。	○	理解していく様に努力を行なっていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は影響等を理解し工夫に取り組んでいる。	○	下剤等だけに頼らないで、色々と飲食物の工夫や運動を考えていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、一人ひとりに合わせた支援を行なっている。	○	自立されている利用者に対し、定期的に口腔状態や口臭のチェックなどをしていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量や食事量はチェックし申し送りで職員が把握しており、一人ひとりの状態や好みに応じて摂取出来るように支援している。		摂取量が少ない場合は、補食やおやつなどで必要量が確保出来るように支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルもあり、チェック表にて日に5回、手すり・トイレ・ドアノブ・台所等の消毒を行ない感染予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具等や衛生管理はチェック表にて除菌が行われ、ふきんは毎食後に除菌している。食材の保管場所の冷蔵庫は掃除されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花や休憩場所のテラスがあり、家族とゆっくりされることもありますが、道路と玄関が遠く近隣の方が出入りされることはありません。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温かい季節を感じる花の飾り付けや写真を貼ってあり工夫されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間や廊下にソファが設置し会話をしたりテレビを見れるスペースになっている。居室の隣に、一人で過ごせたりのんびり喫煙できる部屋などを設け工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使われていた家具や思い出の品などを持って来て頂き、馴染みの物に囲まれて居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度のチェックを行い、その時に応じて窓を開けたりして調整を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	バリアフリーになっており、自立の方も車椅子の方も安全に生活を送れるようになっているが、身体機能が徐々に低下してきている利用者には、お風呂周りの不便さが出てきている。	○	見直しを行い、手摺り等の検討を行ないたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの様子を観て混乱を防ぐ対応を行っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏は、テントを設置し流しそうめん・焼肉・おやつ・屋食を食べている。裏の畑では、野菜や花を植えて楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ② 職員は、思いや願いを共有し意向通りに暮らせるように勤めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ① 毎日の食事やおやつの時間に、ゆっくりと過ごせるように支援している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 基本は、本人のペースで暮らして頂いているが、職員の足りない時や時間のない時は職員のペースになりがちである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 声掛けや行動で、生き生きとした表情や笑顔が出るように毎日行なっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 要望に応えるようにしているが、職員が受診や研修などでたりない時は、本人に説明をし納得いただき日を改めて提供するようにしています。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 主治医・医療機関と連携を取り、安心出来るように支援しています。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 出来る限り、要望に応えるように努力しています。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ① 職員は、面会時等に家族と色々話し合いなどを行い、信頼関係を築いています。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ③ たまに、利用者の友達が訪ねて来る程度です。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>② 今年度より、地域運営推進会議のメンバーをホームの食事などにお誘いし、来設の機会を少しずつ設けています。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>③ 職員が不足している為、生き生きと働けなく時間に追われています。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>② 職員からの声掛けや配慮が欠けている場面もあり、努力が必要と思われる。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 家族等にはおおむね満足していただいていると、会話の中から感じ取れます。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)